

栃木県 日中友好協会 会報誌

第3号

知己

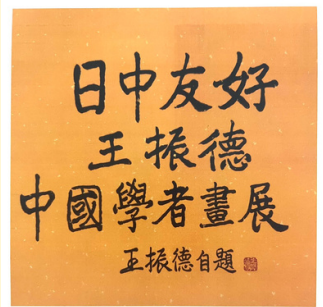
発行：栃木県日中友好協会青年部
河内郡上三川町大字
ゆうきが丘12-6
0285-52-1588

栃木県日中友好協会成立75周年記念 王振徳中国学者画展



王振徳 教授
中国「学者画」の主唱者。

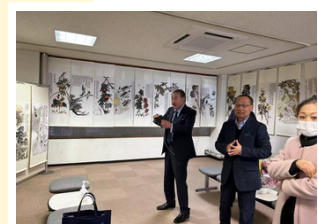
王振徳、1941年4月生まれ、天津出身。天津美術学院にて教授を務める。中国「学者画」の主唱者・実践者。中国現代美術史上で唯一自ら一派を成す。花鳥画、山水画、人物画に精通し、「詩文、書道、絵画を一緒に並べて」の中国文化を探究している。豊富な題材、人生への悟り、奥深い哲理などが作品の特徴である。代表作は『王振徳藝文集』8冊、『中国近現代名家画集 王振徳』等。イギリス人類文化傑出貢献賞、アメリカ学術成果賞、中国百傑画家、世紀中国山水画二百名家、中華芸苑名家、中国文芸連合会文芸評論賞、榮宝齋名人名家書画展示精品賞受賞。国立国会図書館、東京芸術大学、武蔵野美術大学、多摩美術大学など日本各地の図書館に著作を寄贈。宇都宮市での出展は今回が初だそう。



王教授の中国学者画展は令和7年2月18日～25日の7日間、宇都宮市のとちぎ国際交流センター企画展示室にて開催された。18日の午後13:00に開会式が行われ、会員ほか多くの参加者が画展に訪れた。人物、動物、花鳥、山水が描かれた25点の傑作が見るものたちを囲み、栃木日中75周年を色鮮やかに飾り立てていた。



今回実際に展示された作品のうち、以下に5点ほど紹介する。それぞれの作品には人の美徳や世界平和への賛美が込められており、文学をはじめ多くの学問的視座から中国の花鳥風月がきめ細やかに描かれている。



↑多くの会員が画展
←に足を運んだ。

祝
「栃木県日中友好協会成立75周年記念」
～王振徳中国学者画展～

開催日時
2月18日(火)
～2月25日(火)

開場時間▶
午前9時～午後5時
●初日13:00●最終日16:00
休館日：日曜・月曜・祝日

開催場所
とちぎ国際交流センター
(企画展示室)

入場料 無料

▶問い合わせ先◀ 栃木県日中友好協会
TEL:0285-52-1588 028-621-0777
携帯:070-4520-5566
主催：栃木県日中友好協会
後援：栃木県国際交流協会 株式会社栃木放送
下野新聞社

王振徳画展ポスター



『知己』第3号発行にあたりまして

青年部の酒巻です。今回展示された作品の中で、喜从天降圖(左図)が最も心惹かれました。この作品には、鍾馗(しょうき。疫病退散の神)が人民のために戦いに出向こうとすると、頭上から喜蛛(アシダカグモ)が垂れている様子が描かれています。これから動き出そうとする者に幸運が舞い降りてくるというのは、新体制栃木日中が新年度を迎えるにあたり実に縁起の良い情景です。今年中国への観光や交流訪問のビザが免除措置になったこと等により日中間の交流が大いに発展することが期待されます。栃木日中の活動も前年度を超えさらに盛り上がることでしょう。日中友好に関わる方々に多くの幸運が訪れますようお願いしまして、今回第3号目を迎える本誌も応援よろしくお願いいたします。

青年部部長 酒巻大雅

協会活動報告

春節 餃子を作って食べる会 (2025/1/25)



中国の春節といえば餃子！会員だけでなく、地域の方々や中国人留学生など多くの方が参加してくださいました。栃木放送からも取材を受け、栃木日中の新年は大いに盛り上がりました。今年もよろしくお願いいたします！

第1回 栃木県日中卓球交流会 (2/9)



栃木日中初の試みとなる卓球交流会が開催され、地域の方々や中国人留学生を含む多くの参加者が卓球を通じて日中交流を楽しみました。新年度も、スポーツを通じた交流の機会がさらに増えることが期待されます！

王振徳中国学者画展 (2/18~2/25)



とちぎ国際交流センターで県内初の「中国学者画展」を開催。25点の作品が展示され、多くの来場者が訪れました。作品には美德や世界平和への賛美が込められ、文学的視点から中国独特の花鳥風月が表現されています！

令和6年度 第6回 理事会 (3/22)



今年に入って2回目の理事会が開催され、近況報告と新年度事業の確認が行われました。理事会後は中国へ帰国する国際交流員・李永春さんの送別会が開かれ、それぞれが別れを惜しみつつ李さんのまたの来日を願いました！



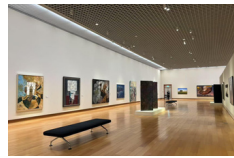
こちらは栃木日中友好協会新設サイトのQRコードです。「知己」に載せきれない詳細な情報はこちらからご覧ください。お問合せや掲載依頼も随時受け付けております！

「宇都宮美術の現在展」胡婧盈さん出展

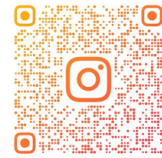


胡婧盈 (Hu Jingying) は、文星芸術大学院美術専攻修了後、光風会会友として活動。栃木県を中心に展覧会を開催し、第109回光風会展光風賞受賞や第10回日展初入選などの実績を持つ。現在も国内の主要美術展に出展を続けている。

今後も多くの展覧会や個展への参加を予定している。2025年3月現在は「第6回宇都宮美術の現在展」(宇都宮市美術館)に出展中。さらに、4月「第110回光風会展」(東京都国立新美術館)に加え、6月には「第11回記念ゲタ箱展」7月には「第8回光風会栃木展」と、日本各地での活動が続く。彼女は今後も個展やグループ展を通じて、作品を発表し続ける予定である。美術を通じた日中交流のさらなる発展が期待される。



←宇都宮美術の現在展の様子。来場者を魅了する作品たち。



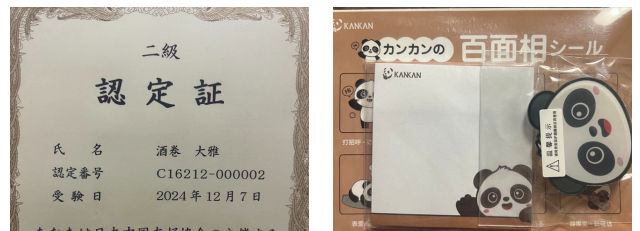
←胡さんのインスタグラム。自身の作品を掲載している。

青年部の歩み スピーチコンテスト全国大会運営お手伝い



1/12(日)に日中友好会館にて中国語スピーチコンテスト全国大会が開催され、青年部が運営に参加しました。大会には栃木県から2名がそれぞれ朗読とスピーチに出場しており、他県に負けない日中友好への思いを披露していました！

会員酒巻、「中国百科検定」を受検 成績優秀者に選ばれました



筆者は昨年12月にとある協会が実施している「中国百科検定」を受検し、2級に合格しました。受検にあたり中国の政治、経済、歴史などあらゆる領域の知識を改めて勉強することができました。皆さんもぜひ受検してみてください！

副賞はなんと、北京&広東一週間の旅!?

成績優秀者に選ばれた受検者には、KANKAN(アプリ)のグッズの副賞(右上図)が配布されました。私もいただきましたが、後日なんと北京、深セン、広州をめぐる7日間の旅という思いがけぬプレゼントが！HPにて詳細をupいたします。

栃木県日中友好協会事務局 連絡先

FAX : 0285-52-1588

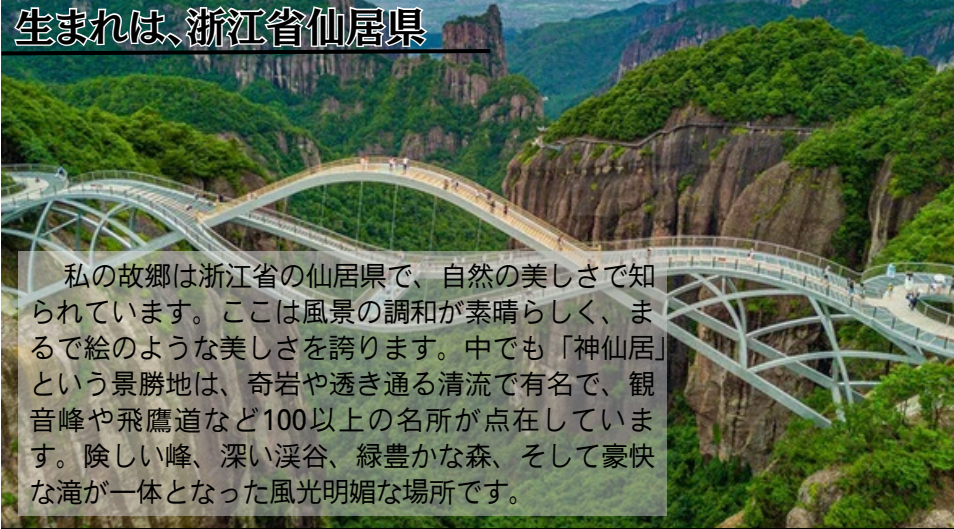
E-mail : tochiginichu.jimukyoku@gmail.com

浙江の知己より

浙江に住む人、学ぶ人、働く人。
我らが知己たちは中国で様々な活躍しています。
彼らの語る中国を聞いて、現地に想いを馳せましょう。

故郷、生活、好きな場所 (文:郭子睿)

生まれは、浙江省仙居県



私の故郷は浙江省の仙居県で、自然の美しさで知られています。ここは風景の調和が素晴らしく、まるで絵のような美しさを誇ります。中でも「神仙居」という景勝地は、奇岩や透き通る清流で有名で、観音峰や飛鷹道など100以上の名所が点在しています。険しい峰、深い渓谷、緑豊かな森、そして豪快な滝が一体となった風光明媚な場所です。

さらに、仙居は「中国のヤマモモの故郷」とも呼ばれ、特産品のヤマモモはその大ぶりの実、甘酸っぱい味わい、栄養価の高さで人気があります。観光客は仙居を訪れ、ヤマモモの収穫を体験することもできるため、味覚と自然の両方を楽しめる魅力的な地域です。

充実した大学生活



学校生活はとても充実していて、多彩な体験ができます。リーズナブルな食事を楽しめる学食、美しく立派な図書館、活気あふれるサークル活動など、さまざまな魅力が揃っています。



さらに、学校には各種スポーツ施設も完備されており、特に注目すべきなのが浙江工業大学の屏峰キャンパスにあるアジア大会基準のクリケット場です。



このクリケット場は、翼を広げた鷲のような独特なデザインが特徴で、学生にプロレベルのスポーツ環境を提供するだけでなく、キャンパスの景観としても際立つ存在となっています。

観光は安徽省がおすすめ!

安徽省といえば、やはり黄山が最も有名でしょう。黄山の雲海は、その絶えず変化する姿で多くの人々を魅了しています。雲が漂うたびに、山々が姿を現したり隠れたりし、まるで神々が住む世界のような幻想的な風景を生み出します。

特に「猴子观海（猿の海観）」と呼ばれる景観は獅子峰の近くにあり、山頂に座る猿のような形の岩が、まるで雲海を見つめているように見えます。晴れた日には、遠くに広がる太平県の緑豊かな大地を望むことができます。そのため、「猴子望太平（猿の太平望み）」とも呼ばれています。

待ってるよ。





郭子睿さん

皆さん、こんにちは！浙江工業大学日本語学科の三年生郭子睿です。今は定期的にジム通いを続ける習慣を養いました。実は大学に入学した時、85キロでしたが、食事改善と運動で写真の様子に変わりました。大学で日本語を勉強することで日本語の魅力を深く体感しました。そして去年の九月、栃木県からの代表団の接待をさせていただきました。

友好交流を通じて栃木県への理解を深める貴重な機会を得ました。今年の9月から宇都宮大学への交換留学を予定しています。そのチャンスを利用し、栃木県の風土を体験したいと心から願っております。日本の皆様の中国訪問も心より歓迎いたします！



河内心奏さん

こんにちは！清華大学人文学部3年生の河内心奏です。この度ご縁があって北京から記事を書かせていただいています。栃木県小山市育ちで、15歳の時中国に越してきてから上海・北京で生活してはや6年目。

普段は言語学を学びながら、社会福祉のお仕事をさせていただいています。北京では宇都宮餃子が、地元では水餃子が恋しくなります（笑）

清華のキャンパスライフ

(文:河内心奏)

みなさんは北京というとどんなイメージをお持ちでしょうか？首都であり、万里の長城、天安門など誰もが一度は聞いたことのある観光地があるのも、ここ北京です。今回は、北京市の大学の一つで、私が在学している清華大学についてお話したいと思います。

清華大学はアジアのみならず世界からも高い評価を受けている教育機関で、特に理工分野では東のハーバードの異名をもっており、世界各国の学生が交流に訪れています。西洋と中国の伝統的な建築様式の両方が見られ、複数の庭園や中庭もある、緑にあふれたとても美しいキャンパスを望むことができます。

清華には様々な留学方法がありますが、大学は非常に多様な学びの機会を提供しています。学部生は特に学業に忙しく、どんな専門の学生でも基礎教養として科学、社会科学、人文そして芸術の分野から一定の必修単位を取らなければなりません。そのため私は言語学を専門としながらも、腫瘍学や災害学を学び、また少人数の音楽クラスにも所属していました。また体育教育に厳しく、“体育がなければ清華は語れない”というモットーがあります。毎週の授業に加え、毎学期決められた距離と回数のランニングが課せられ、卒業には水泳のテストに合格することも必要です。

学内の施設は非常に充実していて、20個以上の食堂やカフェ等の飲食店があるほか、ジムや芸術センターなども併設されています。授業前にカフェでコーヒーをテイクアウトすること、授業終わりにピアノルームをレンタルし、自分の時間を作ることが私の毎日のルーティーンです（笑）また、サークルは日本の一般的な大学と比較するとあまり活動的ではない印象ですが、私は校内の日中交流部や、オンラインで日本のNPO等に所属し、学業の合間に国際交流、教育支援、そして孤独対策の活動に取り組んでいます。皆それぞれが資源を存分に利用し、各々の清華ライフを送っています。

以上、清華大学での生活についてお話しさせていただきました。少しでも中国北京、そして清華への留学に興味を持っていたら嬉しいです！！

